

初めての入院体験、まさかの手術を受ける（鈴木幸一氏の経営者ブログ）

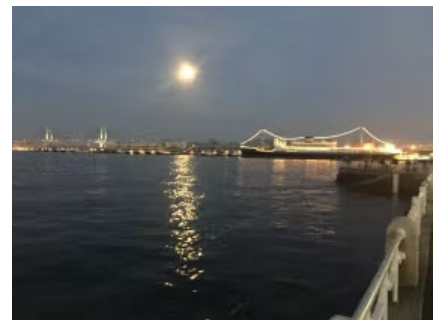
2016/11/22 6:30 | 日本経済新聞 電子版

楽あれば苦ありというか、振り返ってみれば、束の間の幻影のように流れてしまう日々の暮らしも、生きている当事者にとっては、小さな出来事に翻弄され続けているようなものである。あまりに楽しい時間を過ごした後は、往々にして、不幸な時が待ち受けているようだ。先週の日曜日、リッカルド・ムーティさんが指揮をするウィーン国立歌劇場の「フィガロの結婚」を観て、幕間には山下公園から横浜港に反射する大きな満月を眺めていた。子供の頃から、山下公園の岸壁にたたずんで、海を眺めているのが好きだった。敗戦時に艦砲射撃にあった当時の山下公園は、まだ、その痕が、大きな穴ぼことなって水溜まりになり、立入り禁止の場所が多かった。ひときわ大きな満月のあかりが海に揺れる光景は、私が育った場所が、改めて、遠い敗戦の時を消して、豊かな空間になったことに感傷に近い思いが広がる。オペラがはねた後、東京に戻り、ムーティさんご夫妻と、深夜まで会食を楽しんだのである。

■クスリをもらうだけのつもりが

暗転。瞬時にして物事が一変する悪夢の時間が始まったのは、先週の木曜日の朝だった。秋になると、日頃のつきあいに加えて、土日は海外の演奏家や友人との食事が重くなって、ほぼ毎日が会食となる。「日本の食事は世界一」といったほめ言葉につきあって、いつもの倍近く食してしまうことがままある。酒はともかく、日頃、あまり食事の量が進まない私でも、たくさん食べることになり、胃腸がおかしくなることがままある。木曜日の朝も、「前夜、食べ過ぎたかな」といった程度の気分だった。いつも、オフィスに着く頃には、すっきりと治っているのだが、その日は何だか胃の上部の辺りがしくしく痛み続けている。応接間で横になっていてもなかなか治らない。

「胃の上部って、心臓のこともありますよね。病院に行った方がいいですよ」「簡単な診察だけだぞ」。社員に案内されるまま病院にいくと、すぐに様々な検査が始まる。「今日は簡単に薬だけ頂ければいいですよ」というのだが、「原因がわからないとクスリも出せませんから、まず検査をさせていただきます」。



病に倒れる前、山下公園からの風景（筆者撮影）



鈴木幸一（すずき こういち）1946年9月生まれ。国内インターネットサービスの草分け。インターネットイニシアティブ（IIJ）を設立し、郵政省（現総務省）との激しいやりとりの末、93年にネット接続サービスを開始。後に続くネット企業に道をひらいた業界の重鎮。酒、タバコ、音楽と読書を楽しむ、毎春、東京・上野で音楽祭を開催する。近著に「日本インターネット書紀」がある。

朝の10時半頃に始まった検査が、午後4時になっても終わらない。さまざまな悪い数値を伝えてくれる。「今朝までピンピン生きていて、今日すぐにおかしくなることもないでしょう」と、たかをくくっているのだが、深刻そうな答えしか返ってこない。一通り検査が終わった頃になって、「鈴木さん、今日、これから切ってしまうのがいちばんいいですよ。部屋も用意してありますし、すぐやりましょう」と宣告される。「今日、これからですか」「そうです」私はいろいろと抵抗を試みるのだが、先生の方針は頑として揺るがない。とにかく今日は帰してほしいという私の願いはまったく無視も同然である。「簡単なシャツなら用意できますよ」。スーツ姿で着替えひとつなしなのだが、結局は、そのまま入院させられる。

入院すること自体、考えてもいなかったのに、部屋が決まると、「それでは6時から全身麻酔で始めます。胆石が炎症を起こしていますし、胆嚢（たんのう）も腫れがあるので、摘出した方がいいですね」。ちょっと薬をもらいに来たはずが、その日のうちに全身麻酔の手術で「胆嚢」という臓器までなくなることになった。想定外のことである。胆嚢の摘出というのはよくある手術らしいのだが、私にとっては、この日が70歳にして初めての入院なのである。先生に抵抗する気力もなくなって、手術台に乗ると、すぐに全身麻酔が効いて意識不明となる。身を任せるほかないのである。

全身麻酔が覚めた時に、両手、両足を固定されていたことに、ずいぶんと怒るといふか暴れたらしい。何もかもが初体験。長年、病院と付き合いを不得ない方には嚙壁（ひんしゅく）を買うような話だが、日曜日になっても、もう少し病院にいないといけないうだ。腹腔手術とはいえ、お腹の筋肉をきるわけで、身体を動かすたびに、痛みが走る。健康に恵まれてきた分、病に弱いのである。

■いくらでも眠れる驚き

術後もずいぶん沢山の検査がされ、あらゆる数値をチェックされたが、センサーと通信を使って、ビッグデータとして、24時間管理をするといったところまでは行っていないようだ。家庭から病院にデータが送付され、危険な数値が出れば、すぐに対応すべきコーションが家庭に入るといった仕組みがあれば、食生活とアルコールの節制を行うことができ、私の「胆嚢さん」も摘出にまで至らず済んだのではないかと残念である。

今、気づいたのだが、アルコールはもちろんのこと、煙草も吸わなくなって4日目である。私のような人間ですら、状況が状況であれば、節制が可能なのである。わがことながら、いちばん驚いたのは、何時間でも眠れるという発見である。長年の寝不足のしわ寄せか、手術という行為がそうさせるのか、1日15～16時間は眠っている。何年分も眠り続けている気がする。「ずいぶんと起きて居る時間が長かった割に、たいしたことができなかったなあ」と、ぼそぼそとは夢うつつの状態で呟いては、睡魔に身を任せるのである。

鈴木幸一IIJ会長のブログは毎週火曜日に掲載します

鈴木幸一 IIJ会長のブログでは、読者の皆様からのご意見、ご感想を募集しております。
[こちらの投稿フォーム](#)からご意見をお寄せください。

読者からのコメント

60歳代男性 毎週ブログを拝読し我が意を得たりと思うことが多く楽しみにしております。私は65歳ですがこれまで通算228日間入院して生きてまいりましたので、鈴木さまの今回の入院は月並みな言葉ですが「一病息災」で良かったのではと失礼ながら思いました。 ご指摘の通り各種診療データをIoTでネットワークし病気予防に活かすことについてはまだほとんど出来ていません。私自身月に一回のセンサーのデータをSDカードで持参し医療機関に出向きますが、診療機器のリース代を健康保険で払う為の通院です。通信をもっと活用してほしいと日々思っております。
河内 伸さん、50歳代男性 いつもお元気にご活動されている鈴木さんの今回のブログには驚き、且つ心配しています。胆のう摘出手術とのことですが、くれぐれもご自愛頂き、今はのんびり睡魔に身をゆだね、早くご快復されることを祈念しております。
60歳代男性 経営トップなので已む得ないのですが、土日も関係なく内外を飛び回り、会食も重ねて丈夫だなと感心していました。今回は健康管理のいいWarningと思って療養され、完治をお祈りします。東京の春音楽祭に元気な姿をお見せ下さい。
ひの正平さん、60歳代男性 睡眠は重要ですね。私も最近是十分な睡眠を心がけています。会長の明快なブログを楽しみにしています。これからも期待しています。体に気お付けてください。
60歳代男性 毎週欠かさずブログを拝見しているなかで、命を削りながら仕事に趣味に奔走されていると思っていました。体に気をつけながら何とか健康を維持している者にとって、そこまでできるのかと感心していました。やっぱり神様は公平と言うか、少し休めと言うことだと思います。ご自愛ください。
しまさん、20歳代男性 病の床にあっても衰えない鈴木さんの洞察は、すごいなーと思いました。「術後もずいぶん沢山の検査がされ、あらゆる数値をチェックされたが、センサーと通信を使って、ビッグデータとして、24時間管理をするといったところまでは行っていないようだ」。初めての入院に、全身麻酔、胆のう摘出までした後の人なのに、商機を見いだすんですね。1日も早いご回復を願ってます。
40歳代男性 鈴木さん、大丈夫ですか？相変わらずの飄々とした語り口ですがご病状心配しております。あまり無理なさらないで下さい。一刻も早いご回復をお祈りしております。

